

ひと まち 輝く
キラリ★
kirari

箕面市立みのお市民活動センター

(指定管理者:(特活)市民活動フォーラムみのお)

〒562-0013 箕面市坊島4-5-20

みのおキューズモールWEST1-2F

TEL. 072-720-3386 FAX. 072-720-3387

<http://www.shimink.jp/>

Vol. 13

令和5年(2023年)12月発行



トピック

成長できるコミュニティをめざして
「服」と「福」の循環で笑顔の連鎖を
動いてみることで、
地域のご縁が広がる喜び

NPO法人 部活動リノベクエストLabo
藤田晋太郎さん

成長できるコミュニティをめざして

日本の中高生の文化・スポーツ活動の場にとって長い間独自の教育文化として重要な位置にあった部活動は、近年は少子化や教員の働き方改革などを背景に変革の時を迎えています。

「NPO法人 部活動リノベクエストLabo」は、現役教員が中心となり部活動の「リノベーション」をめざし設立されました。その理事長である藤田晋太郎さんにこれまでの経緯やめざすことなどを伺いました。



部活動をやりたくて、教師の道へ

藤田さんは学生時代の部活動で自身の成長を実感し、そこに関わることを大きな理由として教師になったそうです。

「部活動は学生たちが自主的にやるもの、というのが自分の中では一般的な感覚だったんです。自分たちで考えて、目標設定をして、上手くいかないことがあっても仲間の結びつきの中で乗り越える。こういったことは社会に出てからもすごく大事なことだと思います。学校のクラスという集まりではなかなかそこまでぶつかり合えないですが、部活という自分たちで選択して所属している組織だとそういうことができる、それを学生時代に経験することはすごく教育的意義があるのかな、と思います。」

野球部顧問を務めた最初の高校ではプロのトレーナーや管理栄養士など複数の専門家がチームで指導する環境を作り、公立校の中ではそれなりに影響を与えるような事例となったそうです。そして次の高校では専門家チームによる指導に加えてfacebookを活用した外部への発信を始めました。保護者も含め100人くらいにfacebookのグループに入っただけ、保護者目線での情報やご意見もいただきながらチームの方針を発信していったということです。

教員から起業家、NPO法人設立へ

2つの高校での取り組みは成果をあげたものの、一方で「藤田先生だからできる」と特別扱いされることへの違和感は強くなりました。

もともと教育の現場を経験した後に起業することは考えており、キャリアアップのために教育行政や大阪マラソン組織委員会事務局に所属している際に、部活動の支援プラットフォームアプリを開発している企業のかたからお声掛けがあり、教員を退職してともにベンチャー企業を立ち上げることになりました。

「一旦学校現場の外に出ないと自分の考えている世界観は実現しないな、と直観的に思ったので。教員では起業する人は少ないと思います。自分としてはそのロールモデルに

なっていきたいな、と思っています。」

さらにその後、成し遂げたい世界を実現させる組織としてNPO法人というかたちに可能性を見出します。

「民間企業からもやってみようとか、テクノロジーでやってみようとか、国とも組んでやってみようとか、それも全部試したけど、もっと色んな人たちを巻き込んでいかないと間に合わないなと思って出たのがNPO法人という立ち位置だったんです。行政でも民間でもない第3の組織で、学校だったり企業だったり色々な立場に属している人たちが、NPO法人の中に入ってしまうとそれぞれい個人として共通する理念のために活動できる。これが非常に大事なかな、と思います。」

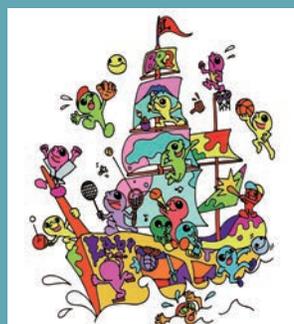
めざしていくこと

現在箕面市でも休日の部活動の地域移行の実証が一部で始まっています。部活動が結果として外部に開かれることになったことを、藤田さんはチャンスと捉えています。

「日本の中でもオリジナリティのあるものが、これまでである意味学校の中に閉じ込められていたことはすごくもったいないことだったと思います。ただそこで教育的意義ということをもふまえてうまく外部からデザインするのは至難の業だと思うので、それができるよう学校現場を経験した自分が本質的な部分を明確化していきたいと思っています。」

藤田さんのいう「教育的意義」の本質とは、一言で言えば「子どもたちの主体性と選択性が担保されたうえで自己実現につながる環境づくり」ということです。

そのために、学校の中だけの資源に限らず専門家、地域、民間企業など外部の資源を取り入れ、指導者は子どもたちのやりたい欲求を引き出し、子どもたち自身がやりたいことを実現できる、そんな環境をつくっていききたいと考えられています。



藤田晋太郎さん Information

北野高校・神戸大学卒。学生時代は部活動で野球に没頭し、社会人クラブチームでもプレーした後、大阪府に教員として採用。11年間教鞭を取った後、教育庁と大阪マラソン組織委員会事務局に配属となり、2022年に大阪府を退職。ベンチャー企業を共同創業して国との実証事業などを経験した後、2023年1月にNPO法人を立ち上げる。

〈団体情報〉

NPO法人 部活動リノベクエストLabo

〒562-0013
箕面市坊島4丁目5番20号
みのおキューズモール WEST1-2F
みのお市民活動センター内

HP: <https://renovquest.org/>



「服」と「福」の循環で 笑顔の連鎖を

サイズアウトしたこども服を必要な人たちで譲り合う「おさがり服」のリユースが各地で広がってきています。「地域ぐるみで服と福の循環」を合言葉に活動されている『フクフクプロジェクト』の代表の新井美美代さんに活動のきっかけや想いをお聞きしました。



新井さんが活動を始めたのは第3子ご出産の後。地域の助産師さんたちがされているママ向けのイベント「助産師カフェ」に参加して、そのSNSで「現役ママがママを元気にするメンバー募集」というのを見て応募したのがきっかけでした。子育てで忙しくて余裕はないけれど、0歳~1歳の赤ちゃんママたちで企画運営するならできそうな気がして、つながりも広げられるし、我が子の育ちと共に成長できたらいいなと思われたそうです。当初集まったメンバーは7~8人ほど。初回の集まりでは全員で模造紙に自分がやりたいこと、あったらいいなと思うことを書きだすことから始めました。そのとき新井さんが書いたのは「古着リユース」。ちょうどそのころ新井家には友人たちから頂いたおさがり服がたくさんあり、とても使いきれない量にこれはどうしたものかと考えていたそうです。そこで思いついたのが「リユース」。自分以外にも必要な人がいるはず、くれた人たちにもちゃんと恩返ししたいし、地域ぐるみで循環できたら役立って、恩返しにもつながっていく。そういうふうにして優しさを次の人へ、また次の誰かへと繋いでいけたら社会が繋がっていくんじゃないかと思

ないかと思、「服」と「福」を掛け合わせて『フクフクプロジェクト』を立ち上げられました。

活動を始めて今年で6年。やりがいをお聞きすると「やっぱり笑顔ですね。服を持ち込む人も、持ち帰る人もあたたかい気持ちになります。スタッフも笑顔で、参加者も笑顔で、笑顔の連鎖が生まれます。服と福の循環をテーマにみんなで幸せになれる。一銭ももらわない活動だけど、みんなの笑顔につながるならやりがいになります。」と新井さん。また、「みんな子育てしながらの活動だから、家族ファーストで無理なくできる範囲で、楽しく続けられることを大事にしています。定着してきたこの活動が地域に根付くものであってほしいです。」と想いを語られました。

フクフクプロジェクト Information

活動予定はInstagramやフェイスブックをご覧ください



Instagram



フェイスブック

動いてみることで、地域のご縁が広がる喜び

北摂を中心に、建築×福祉のコラボで地域をつなぎづくりをめざす一般社団法人トナリトを2022年に立ち上げた清水健一さん。本業として他市の福祉機関で働きながら、地元でも活動することへの想いについて、お話をお聞きしました。



もともと、住んでいる箕面でも何かしたいと前から思っていて、2019年、池田のまちづくりに関するトークイベントで、建築士と同じ箕面在住の吉田さんと出会ったのがトナリトを始めるきっかけです。彼は建築の専門性、僕は福祉の専門性を活かして一緒に何かできるのではないかと意気投合しました。

そこから、建築を学ぶ学生や子どもたちと一緒に箕面駅前ですてき屋台を出したり、子どもが大人をもてなす「おとな食堂」、半町の公園で自治会と連携して多世代の防災イベントを催したりしてきました。トナリトとは別に、地域イベントの企画・運営、子ども支援ボランティアなどにも関わっています。

そもそも仕事と家庭以外の“地域”に目線が向いたきっかけは、子どもが生まれたことも大きかったです。自分自身は隣近所の交流が盛んな地域で育ったので、子どもにもそういった環境の中でたくさんのかを感じながら育ってほしいなと思って。

活動を始めたことによって、いろんな人とつながって広がっていくことが喜びです。前職で知り合った新聞記者さんにトナリトのことを話したら取材してくださって、その記事を見た方が声をかけてくれたご縁でみんな食堂に関わるようになったり。吉田さんが勤める専門学校の生徒さんからのご縁で、連携でき

る自治会役員さんとなつなったり。また、公園での防災イベントでは、地域子どもたちがご近所のお年寄りを誘って迎えに行くという取り組みを盛り込んだら、幅広い世代の方々と顔見知りになれたので、今後もこの地域の方々と交流できる機会をつくれたらいいなと思っています。

あの人とこんなことできたら面白いかなという妄想するのも楽しいです。連携したい相手に直接お願いに行くこともあります。本職で、障害者の雇用受け入れの提案をしに企業をまわった経験が活かしているのかも。

清水健一さん Information



1974年生まれ。豊中市出身、箕面市在住。
大学卒業後は、主に高齢者や障がい者の相談支援業務等、社会福祉士・精神保健福祉士として従事。

〈団体情報〉 一般社団法人 トナリト
HP: <https://tonarito.net/>



クイズコーナー

今回掲載記事に関するクイズです。
今号で紹介した藤田晋太郎さんが代表を務めるNPO法人 部活動リノベクエストLaboはいわゆる“BDK”の集まりからスタートしたそうです。

BDKとは何の略でしょうか？

- ①部活動 大好き 教員
- ②バリバリの ど素人 顧問
- ③ベンチ 出禁 監督
- ④ブランド ドヤ顔 球児
- ⑤部費で 大奮発 後悔

① <正解>

インフォメーション

偶数月の第3水曜日18:30～ 定期開催!

みのお cinema 上映会

様々な社会課題をテーマとした映画の自主上映会をひろめるcinemaというサイトがあります。その仕組みを利用して、定期的上映会をみのお市民活動センターで実施しています。

毎回、企画ボランティアと過去参加者の皆さんからの投票で次の作品を選定しています。これまでに社会貢献の裏側、コミュニティ、武器ビジネス、フードロス、持続可能社会、マイノリティなど、のテーマの作品を上映しました。

毎回希望者だけ残って感想交流会も行なっているため、他の参加者の視点も知ることができたり、新たなつながりが生まれたりするのも魅力です。ぜひ一度ご参加ください。



上映会



感想交流会

市民活動

みのお市民活動センターを管理運営するNPO法人です。様々な課題に取り組む市民活動の応援をしています!

フォーラム

みのお

センターではこんなサービスを提供しています!

誰でも使える…印刷機、コピー機、貸会議室等
非営利公益市民活動団体が使える…年登録制;
事務ブース(貸事務所)、倉庫、ロッカー、メールボックス

団体のお困りごとに答えます!

活動支援「夢の実支援金」…団体の立上げ、事業の拡充を資金面で応援します。
団体の運営課題の解決…事務力、広報力などのスキルアップ講座を開催しています。
その他ホームページ、SNSでさまざまな情報発信をしています。

社会課題に取り組んでいる活動をアピールしています!

市民活動の紹介や被災地復興支援のイベント、市民社会講座やフォーラムを開催しています。

何かしたい!役立てたい!という思いに答えます!

ボランティア情報サイト v-info…ボランティア情報を発信しています。

NPO広報サポーター promo…団体の取材を通してNPOの活動を体感できます。

NPO・市民活動を紹介する冊子の発行等情報提供しています。

当法人のネットワークで、いろいろな分野をつなげます!

市民活動と企業、店舗、学校などと連携することで、強みを活かした活動につながります。

